

大清水のおもな歴史

【昔】

松林 明治以降 御料林※になった

【明治】

41年(1908) 第15師団※設置 陸軍用地(演習地)になる

【大正】

12年(1923) 御料林払い下げ※ 約100町歩(100ha) ※1ha=10000m²
30町→渥美電鉄、70町→開墾

13年(1924) 大清水駅開業

15年(1926) 最初の移住者 清水清次

【昭和】

2年(1927) 耕地整理組合を設立 山林開墾、道の整備

7年(1932) 大清水町誕生

※御料林 …明治憲法下で、皇室所有の森林。
大日本帝国憲法

※第15師団…大日本帝国陸軍の師団の一つ。日露戦争と日中戦争のとき編成された。

大 総軍、方面軍、軍、集団、師団、旅団、団、連隊、戦隊、大隊、中隊、小隊、分隊

小

※払い下げ …不用になったものを、役所などの機関が民間に売り渡すこと。

校区章は、「大清水しようぶ太鼓」の法被や校区の運動会で校区旗として掲揚されています。



昭和六十二年校区創立30周年
校区章



昭和四十七年開校
県立豊橋南高等学校の校章



昭和三十三年創立
大清水小学校の校章



昭和二十九年造営
大清水神社の紋章

大清水の呼称が、いつ頃からあったのかは、よく分かりませんが、大正十四年に渥美電鉄が、田原、高師間の開通時、大清水駅ができています。
この地は当時、やせた荒地でしたが、豊富な湧き水の湿地があったことから、大清水と言われたのではないのでしょうか。
この湿地に、ノハナシヨウブの自生地がありました。現在の野依台二丁目の辺りと考えられます。それは、昭和十二年に、「野生花しょうぶ天然記念物指定について」の報告書があるからです。
終戦後、大清水に住み始めた多くの開拓者が、初夏に咲き誇るノハナシヨウブの群衆を見て心身を癒し、ふるさとの花という思いを育んだことは想像できます。
大清水校区は、まちづくりをすすめる中で、校区のシンボルとしてノハナシヨウブを大切にしています。



大清水は、昭和七年に豊橋市大清水町となりました。それまでは渥美郡高師村大清水でした。

ノハナシヨウブ
山野の草原や湿原に生える多年草で、ハナシヨウブ(花菖蒲)の原種です。
大清水校区とノハナシヨウブ

